

2015年3月期第1四半期 決算カンファレンスコール 主な質疑応答（要旨）

Q1

宅急便の取扱数量と単価について、足元の状況と今期の見通しについて教えてください。

A1

- 取扱数量の伸びの見通しは、前年比+3.5%（期首時点）から、前年比+2.0%（第1四半期終了時点）に変更しております。これは、第1四半期の荷動きの状況から見て、消費増税に伴う駆け込み需要の反動減の影響が想定以上に長引いていることと、今後の適正料金収受施策の影響で一部顧客の流出も想定されることによるものです。しかしながら、新規案件もあり、達成可能な範囲であると考えています。
- 宅急便単価は適正料金収受の交渉が奏功し、前年比で+2.8%上昇しています。プライシング戦略の基本的な考え方に変化は無く、引き続き適正料金収受の交渉を行ってまいります。交渉が済んでいないお客様とも着実に交渉を進めており、宅急便単価の上昇傾向は続いていく見通しです。

Q2

人件費の通期見通しについて、前年比+5.6%（期首時点）から、前年比+3.5%（第1四半期終了時点）に減額した要因を教えてください。また、人材の確保状況について教えてください。

A2

- 主な要因は、宅急便取扱数量見通しの減少や、業務の生産性の向上に伴い、人員の採用をコントロールする予定であることです。
- 予想数値には、時給単価の上昇リスクやベースアップも織り込んでいます。
- 一部では人材確保が困難な地域もありますが、全体としては採用をコントロールできている状況です。

Q3

備車費について、足元の状況と今期の見通しについて教えてください。

A3

- 備車費の見通しについては、今後備車単価の上昇が見込まれるため、前年比+3.5%（期首時点）から+8.3%（第1四半期終了時点）に変更いたしました。
- 当第1四半期においては、物量の急激な変化に対応しきれず、備車費のコントロールが難しい状況となりました。現在は、改善された状況となっています。

Q4

現在のクール宅急便に関する品質管理の状況を教えてください。

A4

- 温度管理をはじめとしたクール宅急便の品質に関しては、事前の施策が奏功し、確実に改善しております。